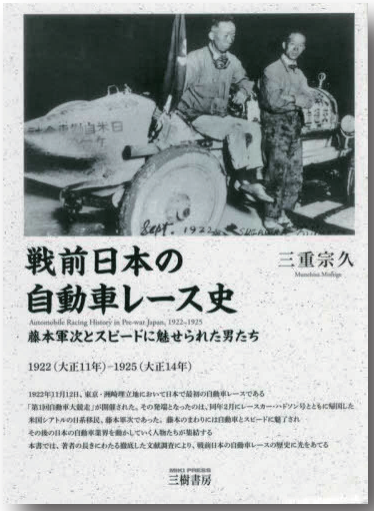
GUNMA PREFECTURAL LIBRARY
群馬県立図書館
新収蔵資料抄
Vol. 21
2022/ 8/19 発行
不定期刊



最寄り図書館に取り寄せ可

戦前日本の自動車レース史

Automobile Racing History in Pre‐war Japan,1922-1925
藤本軍次とスピードに魅せられた男たち

三重 宗久／著　三樹書房　2022.5　287p　22cm
788.7/ ネ 25　2022.6.10 受入　定価　4,500 円＋税

目次

巻頭言　もう一つの戦前史
第１部　急行との競争
　第１章　雨の横浜埠頭
　第２章　列車に挑む
　第３章　下関発急行
　第４章　翅を折られた鳥
　第５章　シアトルにて
第２部　州崎の２回
　第６章　州崎第１号埋立地
　第７章　操車、神の如き
　第８章　東洋最初の４台並列協奏
　第９章　競争は最後に決する
　第 10 章　テルコ・ビッドル
第３部　大震災
　第 11 章　小栗の飛行機
　第 12 章　大震災起こる
　第 13 章　自動車を、タイヤを
第４部　立川飛行場
　第 14 章　新鋭登場
　第 15 章　白揚社とオートモ号
第５部　鶴見埋立地
　第 16 章　泥濘の鶴見
　第 17 章　カーチス OX５
　第 18 章　アート・カーチスの成り立ち
第６部　代々木、３年間の総括
　第 19 章　代々木原の決闘
　第 20 章　アート・スミスの豆自動車
　第 21 章　競争に負け、宣伝に勝った
　第 22 章　あるいは埋まり、あるいは跳ね
藤本軍次年譜　／　参考文献
あとがき　／　附記

資料概要

本書の概要は、巻頭言の書き出し４行に集約される。「本書は、わが国自動車レースの草創期、大正末期の 1922～25 年に、東京の洲崎埋立地、陸軍立川飛行場、代々木練兵場、大阪の城東練兵場、名古屋東練兵場で行われた計８回の自動車競争の連戦を経糸とし、それに関わる様々な人々や社会現象を緯糸とする、一つの群像譚である。」

「群像」として描かれる面々は、菅原俊雄、屋井三郎、山階宮武彦王、小林吉次郎、多田健蔵、野澤三喜三、諫早不二雄男爵、内山駒之助、北白川宮成久王、朝香宮鳩彦王などなど、枚挙にいとまない。本書はその中心に、巻頭言を記した藤本隆宏東京大学名誉教授の祖父、藤本軍次を据えた。

自動車と蒸気機関車、飛行機がスピードを競っていた、今としては不思議としか言えない時代。自動車の自由なスピードに魅了された人々の間では自動車競争への熱気が高まっていた。そして、シアトルの日系移民だった藤本軍次がレースカー、ハドソン号とともに帰国したことは、あたかも充満していたガスに対する発火装置のように働いたという。

蒸気機関車との競争に中山道の高崎が登場し、オートモ号の松島行では太田を経由するなど、群馬県ともまんざら無関係ではない。帝国自動車協会の常任理事として、碓氷郡豊岡村（現高崎市豊岡町）出身で輸入車販売の（株）ヤナセの創業者、梁瀬長太郎の名前も見える。加えて、大井川を渡る橋がないことを知らずに東海道を走ったり、飛行機を見るために木に登り、後にアート商会でカーチス・レーサーを組み立てた少年が本田宗一郎だったり、レース周辺のエピソードもほほえましい。

著者紹介

三重 宗久（みしげ むねひさ）

1948 年東京都生まれ。。1971 年 4 月～ 1983 年 12 月雑誌社勤務。1984 年 1 月に独立し、海外取材により『ル・ボラン』や『モーターマガジン』に記事・写真を寄稿する。

その他、2001 年 12 月、自動車関係の専門家を招いての講演会「西家鼎談」を主催（～ 2019 年 12 月まで）。

著書に『The Classic Ferrari』（駿出版、1984 年）、『ル・ボラン名車探求 21 章＋２』（立風書房、1991 年）、訳書に『世界のレーシングエンジン』（グランプリ出版、1990 年）など。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料（図書資料・視聴覚資料）から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。
なお、本紙の内容は Web にも掲載しています。ご覧の際は右の QR コードをご利用ください。
また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

群馬県立図書館　〒371-0017 前橋市日吉町一丁目９－１　電話：027-231-3008